恩多 しって でお にの な 浴 先 たの。近路をのぞいていた。 してで 、るまで のぞいては、先ずちょっと息をついてはどうなることか、月末の間代ので、質屋の蔵へ運ぶことができるか 、床屋へ ったあるが、動いて 、飯屋で いで ではいつもの味噌汁と香の物の代りに、さついたのである。そして、しばらくは遠慮代の支払いはどこから捻出するか、というるからである。私どもも、そうした気候の あっ は た

閑張 よ う な顔つ 0 机の前に をも K. つ ツカとなっ に二銭銅貨をのせておいたのは君だろう。あれは、どこから持って、私にこんなことを聞いたのである。かと坐ったときに、一人残っていた松村武が、妙な、一種の興奮し

君 この 僕の机 の上

あ

る日のこ

17

17

一合のこと、

かを奮発す

るとい

て、銭湯から帰っ

っていた松村武が、妙な、一種の興奮してきた私が、傷だらけの毀れかかった一

「どこの煙草屋だ」なってある、おれだよ。 き たのだ 3 0 き煙草を買ったおつりさ」

飯屋の隣の 、あの婆さ、 んのいる不景気なうちさ」

銅貨について訊ねるのであった。と、どういうわけか、松村はひ 4 そうかし 松村はひどく考えこんだのである。そして、なおも執拗にその二銭

「確か、いなかったようだ。そうだ。いるはずがない、そのときあの婆さんは居眠りをして一君、そのとき、君が煙草を買ったときだ、誰かほかにお客はいなかったかい」

の答えを聞

から あの 煙草屋には、あの婆さんのほかに、どんな連中がいるんだろう。君は知らな聞いて、松村はなにか安心した様子であった。

3 ね h 2 お より だ n W は、 3 カン 5 0 は だ きっと不景気な爺さんがいるきりだ。しかし、君はそんなことを聞いてどうしよ、おれは相当あの煙草屋については詳しいんだ。あそこには婆さんのほかに、婆あの婆さんとは仲よしなんだ。あの不景気な仏頂面が、妙に気に入っているのでの煙草屋には、あの婆さんのほかに、どんな連中がいるんだろう。君は知らない

ま ン、話してもいい。爺さんと婆さんとのあいだに一のことを話さないか」あいい。ちょっとわけがあるんだ。ところで君が詳 しいというのなら、もう少しあの煙

銭 草屋

銅

貨

**煙草屋も、つぶれないの娘を見かけたが、そ** ウ ないで、どうかこうかやっているのだだ。その差入屋が相当に暮らしている そう悪くな てう悪くないきりょうだぜ。それがい。爺さんと婆さんとのあいだに一 るので、その仕送りで、あの不景気なかなんでも、監獄の差入屋とかへ嫁入一人の娘がある。おれは一度か二度そ

る。そして、広くもないれと頼んでおきながら、 私が煙草屋に関する知識について話しはじめたときに 広くもない座敷を、隅から隅へ、ちょうど動物園の熊のように、ノソリノソきながら、もう聞きたくないといわぬばかりに、松村武が立ち上がったので 、驚いたことには、それを話して